

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成17年7月21日(2005.7.21)

【公開番号】特開2003-49154(P2003-49154A)

【公開日】平成15年2月21日(2003.2.21)

【出願番号】特願2001-239014(P2001-239014)

【国際特許分類第7版】

C 0 9 K 3/00

【F I】

C 0 9 K 3/00 1 0 3 M

【手続補正書】

【提出日】平成16年12月7日(2004.12.7)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

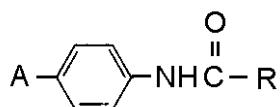
【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

下記化学式



(式中、Aは糖の残基を表し、Rはアルキル基を表す。)で表されるハイドロゲル化剤。

【請求項2】

前記Aが、アルドピラノースの6員環に結合するいずれか一の水酸基の水素を除いた残基を表す請求項1に記載のハイドロゲル化剤。

【請求項3】

前記アルドピラノースがグルコピラノース又はガラクトピラノースである請求項2に記載のハイドロゲル化剤。

【請求項4】

前記Rが炭素数が6~20の直鎖アルキル基である請求項1~3のいずれか一項に記載のハイドロゲル化剤。

【請求項5】

請求項1~4のいずれか一項に記載のハイドロゲル化剤を、1-ブタノール、t-ブタノール、テトラヒドロフラン、クロロホルム、ジクロロメタン、n-ヘキサン、酢酸エチル、ジメチルホルムアミド、ジメチルスルホキシド及び水(微量のメタノールとエタノールを含んでもよい。)から成る群から選択される溶媒と混合し、この混合物を固形分が溶解するまで加熱し、冷却することから成るゲル化方法。

【請求項6】

前記ハイドロゲル化剤と前記溶媒とを、ハイドロゲル化剤の濃度が0.1~3.0重量%となるように混合する請求項5に記載のゲル化方法。